

愛犬と愛猫の“真の健康”のために。 大切な5つのポイント

愛犬と愛猫の“真の健康”を育み、彼らの暮らしをより健やかで、より豊かなものにするための5つのポイントをご紹介します。

ポイント1

違いを知る

犬と猫は、人とはまったく異なる動物であることを理解すること。

ポイント2

栄養ニーズを知る

一頭一頭栄養ニーズが異なることを理解し、最適なフードを適量与えること。

ポイント3

よく観察する

犬と猫は不調を訴えることができないため、小さな変化でも見逃さないようにすること。

ポイント4

定期的に健康診断を受診する

犬と猫は人の4倍以上のはやさで成長するため、年2回の健康診断を受けること。

ポイント5

専門家の正しいアドバイスを受ける

日頃から獣医師などの専門家とコミュニケーションをとり、正しい知識をつけること。

ロイヤルカナン公式



「愛猫に定期的な健康診断を」シリーズ



「愛犬のための健康チェック」シリーズ

ペットの防災対策

災害はいつどこで起こるかわかりません。いざという時に愛犬・愛猫の安全と健康が守れるよう、備えておくことが大切です。

①避難用品の準備

- ペットフードと水
- 首輪やリード
- 日頃飲んでいる薬
- 食器



②しつけと健康管理

- 「おすわり」「待て」「おいで」などのトレーニング
- キャリーケースに入れるようにする
- ワクチン接種や寄生虫予防を行う



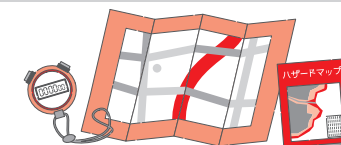
③迷子にならないように

- マイクロチップを装着する
- 首輪に名前や連絡先のタグをつけておく



④避難場所と避難経路の確認

- 住んでいる地域の防災計画を確認する
- 避難場所までの経路や所要時間を確かめておく



ペットの防災対策について、さらに詳しくはこちら
「ペットも守ろう! 防災対策」環境省



どうすればいい? ペットフードの備え

Q 何日分のペットフードを蓄えておけばいい?

A 最低でも5日分を目安に、未開封のドライフードを常に1つ以上備蓄しておくとういでしょう。療法食の場合、発災後しばらく手に入らないこともあるため多めに備蓄するのがおすすめです。

Q ドライとウェットどちらがいい?

A 開封後も常温で長期保管できるドライフードが便利です。ただし、ライフラインが断たれることもあり、水分補給の観点からウェットフードの備蓄も重要です。賞味期限も長いので備蓄にも適しています。どちらも使い切る寸前に買い足すのではなく、常に備蓄しておくことを心がけましょう。